

シナリオ：『汐製菓会社の新作11
マシユマロ2』

登場人物

汐（30代・男性）

汐製菓会社の社長。「面白きことも無き世を面白く」をモットーに、奇想天外な菓子商品を次々と発案する。快活でエネルギッシュな性格。

塩田（30代・女性）

汐の秘書。真面目で心配性な性格。汐の突拍子もないアイデアにいつも振り回されるが、実は大のお菓子好き。そのために製菓会社に就職した。

あらすじ

汐製菓会社の社長である汐は、次なる新商品の開発を考えていた。彼の目に止まったのは、ふわふわの「マシユマロ」。しかし、ただのマシユマロでは面白くない。そこで、彼は大胆にも「お刺身味のマシユマロ」を提案することに。果たして、その奇抜な発想が国内外の人々に受け入れられるのか――？

シーン①：汐製菓会社 社長室

【社長室】。豪華なデスクの前に汐が座っている。塩田が書類を抱えてはまっている。

汐

（思索的に机を指でトントンと叩きながら）最近、会社の新商品が少しマンネリ化してると思わないか、塩田さん？

塩田

（警戒心を隠せない）ええ、まあ、確かに…。

しかし、前回の「チョコレート味のポテトチップス」もなかなか評判良かったですし…。

汐

あれはまだ普通すぎた！もっと何か、大胆で奇抜なものを出さなければ！この世にない味を！

塩田

（苦笑い）社長、またとんでもない発想が湧いているんですね…。

汐

（急に身を乗り出して）塩田さん、マシユマロってどう思う？

塩田

（驚きつつも冷静に）え、マシユマロですか？柔らかくて甘い…まあ、普通のお菓子かと。

汐

その「普通」じゃダメなんだ！だからこそ、こ

れを…（不敵な笑みを浮かべる）お刺身味に
しようと思うんだ！

塩田

（絶句）お刺身…味？マシユマロに？

汐

そうだ！想像してみてください。ふわふわのマシユ
マロを口に入れた瞬間、舌に広がるのは、まさ
かのサーモンの風味…！

塩田

（困惑）それは…その…誰が食べるんでしょう
か？

汐

（自信满满）世界中の好奇心旺盛な人々
さ！新しいものを求めているのは、何も日本
人だけじゃない！

塩田

（内心で頭を抱えながら）確かに、インパクト

はありますけど……。試食の段階で誰か倒れま
せんかね？

汐

（無邪気に笑って）それがいいんじゃないか！
話題になること間違いなしだ！

シーン②：汐製菓会社 商品開発部

【商品開発部のラボ】。研究者たちがあちこ
ちで作業している。汐と塩田が部屋に入って
くる。

汐

（威勢よく）皆さん！新しい挑戦だ！これか
ら「お刺身味のマシユマロ」を開発する！

研究者ㄝ

（驚きつつも好奇心を抑えきれない）お刺身
味……ですか？それはまた、かなり斬新ですね。

研究者 ㊦

（少し困惑しながら）しかし、甘いものと魚の味が混ざるといのは、どうなのでしょうか
…。

汐

（ニヤリと笑って）だからこそ価値があるんだ。世の中には、未だ誰も見たことのない組み合わせが存在する。その先駆者になるんだよ、我が社が！

塩田

（小声で）社長、もしこの計画が失敗したら、会社の評判が…。

汐

（自信たっぷり）リスクなくして成功なしだよ、塩田さん！

研究者 ㊦

（意気揚々と）やってみましょう！サーモン、マグロ、それとも鯛…どの魚から始めますか？

汐

全部試してみよう！どの味が一番マシユマロと合うか、徹底的に研究するんだ！

シーン3：試食会

【会議室】。試食会が行われている。テーブルの上には、色とりどりの「お刺身味マシユマロ」が並べられている。汐、塩田、数名の研究者、そして数名の社内スタッフが席についている。

汐

（意気揚々と）さあ、皆さん。これが我が社の新作「お刺身味マシユマロ」だ！好きなものを選んで食べてみてくれ！

塩田

（不安そうに）…本当にこれを食べるんですか？

スタッフA

(半信半疑で)ええと、じゃあ…このサーモン味のマッシュマロを…。

スタッフA、サーモン味のマッシュマロを食べる。

彼の表情が一瞬で変わり、驚きと困惑が入り混じる。】

スタッフA

(苦笑いしながら)…これは、なんとも言えない味ですね…。

スタッフB

(恐る恐る)じゃあ、私はマグロ味を…。うわっ…これは…？

研究者A

(興味津々で)どうですか？新感覚ですか？

スタッフB

(困惑しつつ)新感覚…と言えば、そうかもしれません…。

汐

（大笑いしながら）それでいい！みんなが戸惑うような味こそが、新しい時代を切り開くんだ！

塩田

（呆れつつも、内心では楽しんでいる）社長、本当にとんでもない発想ですね…。

シーン4：市場の反応

【ニュースキャスターの声】

ニュースキャスター

「本日、汐製菓会社から発売された『お刺身味マシユマロ』が大きな話題となっています。しかし、その味については賛否両論の声が上がっております…」

【SNSの投稿画面】

SNS ユーザー1

「これは…一度食べたなら二度と忘れない味だね（笑）」

SNS ユーザー2

「お刺身とマシユマロって、合わないに決まっているだろ！でも、なんかクセになる…」

SNS ユーザー3

「こんなに気持ち悪いのに、なんでまた買ったくなるんだ…!?!」

シーン5: 結末

【汐製菓会社 社長室】。汐と塩田がいる。

塩田は手に売上報告書を持っている。

塩田

（驚きながら）社長…売上が予想以上です。お刺身味マシユマロ、なんだかんだ言って人気です！

汐

（満足そうに微笑んで）そうだろうか？これが面白きことも無き世を面白くするってことだ！

塩田

（半ば呆れながらも感心して）社長の発想力には、本当に驚かされます。次は一体何を考えているんですか？

汐

（目を輝かせて）次は…そうだな。マシユマロの寿司味なんてどうだろうか？

塩田

（すっかり慣れてきた様子で）社長、それは…面白いかもしれませんね。

【/人は笑い合いながらシーン終了】

THE END